

11/26  
朝日

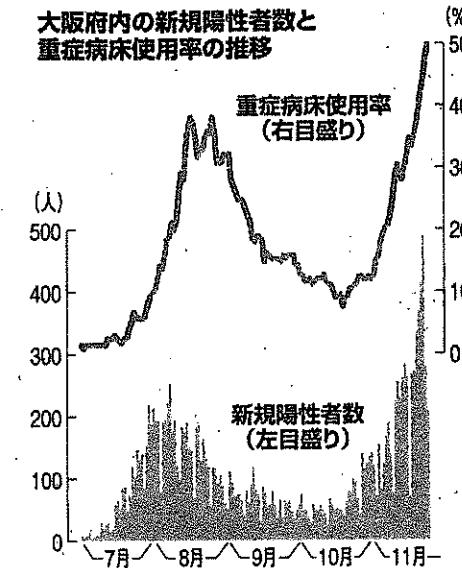
# 感染ペース続けば不足の恐れ

# 重症病床 50% 大阪府 危機感

新型コロナウイルス感染の「第3波」が急拡大する大阪府では、重症病床の使用率が50%を超えて、医療体制逼迫への危機感が高まっている。府は病床や医療スタッフの確保を急ぐが、感染者の増加ペースに追いついていない。いまの状況が続けば、来月上旬に病床が不足する可能性もある。

「重症病床は簡単に増えやせない。重症者の伸びるスピードが速い」。吉村洋文知事は25日、記者団の取材に応じ、重症患者の受け入れ状況が厳しくなっているとの認識を示した。

府内では、19～22日発表の新規陽性者が3338・490人にのぼり、4日続けて過去最多を更新。府の分析によると、17・23日の1週間、人口10万人あたりの新規陽性者数は27・65人。集計方法の変更を含む前週



## 全国重症者376人 最多

新型コロナウイルスの国内感染者は25日午後9時現在で新たに1945人が確認された。厚生労働省によ

ると、重症者が前日から31人増えて376人となり、過去最多を更新した。新たな感染者は3日連続で2千人を下回ったが、11月上旬から1千人を超

### 大阪府の重症病床の現状 24日時点

残り13床	107床	120床
コロナ患者が使用している病床数	運用している病床数	運用している病床数
86床	206床	206床
コロナ患者用に確保している病床数	コロナ以外の重症患者が利用するなど準備が整っていない病床数	コロナ以外の重症患者が利用するなど準備が整っていない病床数
86床	120床	13床

える日が相次いでいる。死者は北海道で6人、京都と埼玉、愛知両県、大阪府で各3人が判明するなど8都道府県で21人だつた。

からの増加率は1・5倍で、政府が動向を注視する7都道府県の中で2番目に高くなつた。

重症病床（206床）の使用率も上昇している。1日前点の重症者は26人、使用率は12・6%だったが、24日は107人、51・9%に達した。ただ、206床のうち、86床はコロナ以外の重症患者が利用するなど準備が整っていない。実際にコロナ患者用に運用されている120床の使用率は89・2%まで跳ね上がる。

24日の府対策本部会議

で、藤井聰子・健康医療部長は「病床は極めて危機的状況。緊急避難的な対応として、小児の重症患者やコロナの中等症患者向けの病院に、コロナの重症患者の受け入れをお願いしている」と話す。（森下裕介、本多由佳）

院に、「コロナの重症患者の受け入れをお願いしている」と明かした。

感染者が集中する大阪市松井一郎市長は25日、記

者団の取材に応じ、人材確保の難しさを訴えた。「マン

パワーワーには限りがある。全

国で（看護師ら）専門職の取

り合いになつていて」。市

は、ICU（集中治療室）の

増床検討に加え、大阪市立

大学病院からコロナ対応の

医療スタッフを派遣しても

らう方向で協議している。

府の試算によると、現状

で近い1・5倍のペースで

新規陽性者が増え続ける

と、府が目指す215床を

確保できた場合でも12月2

日には70%を超えて、10日には重症病床が不足するとい

う。

府の専門家会議委員であ

る、りんくう総合医療セン

ター長は「どこの医療現場

も疲弊しており、患者の受け入れはギリギリ。高齢者

施設などのクラスター対策

で感染増加に歯止めがかからぬを期待するしかない」と話す。（森下裕介、本多由佳）